

【具体的手法の検証】

本事業における創立 70 周年記念誌の作成にあたっては、限られた予算および期間の中で、品質の確保と将来への継承性を両立させることを目的に、複数の具体的手法を採用しました。以下に、それぞれの実施方法および妥当性について検証します。

① 会員による確認作業への参画手法について

記念誌本体の確認作業においては、理事のみならず理事以外の会員にも参加を促し、校正用データを共有する形で複数名による確認作業を実施しました。

これにより、誤字脱字や表現の確認に加え、当時を知る会員からの補足意見や、若い世代の会員による読み手目線での指摘を得ることができました。確認作業には一定以上の時間を要しましたが、少人数での確認と比較して内容の正確性および客観性を高めることができたことから、本手法は有効であったと判断されます。

② 制作及び修正体制の構築手法について

記念誌の制作には、Adobe Illustrator を使用し、印刷業者と事務局担当者の双方が作成および修正作業を行える体制を構築しました。Adobe Illustrator は非常にメジャーな制作ソフトである一方、無料で使用できるソフトではありません。

今回は、事務局メンバーの中に同アプリの所持者、過去にデザイナーとしての実務経験を有するメンバー、ならびに現時点では所持していないものの強い関心を持ち、習得を希望するメンバーが含まれていたことから、本手法を選択しました。

本事業では、基本的な誌面構成およびデータ作成を自分たちで行い、最終段階でのデザイン調整を印刷業者に依頼する手法を採用しました。この方法により、制作過程に主体的に関わることができ、内容面において自分たちの意図を反映させやすいという利点がありました。一方で、初期段階におけるベースデザインの作成については、当初の想定以上に時間を要する結果となりました。

この点を踏まえると、今後同様の手法を選択する場合には、誌面構成や掲載内容の整理といったベース案は自分たちで作成した上で、最初のデザインベースについては印刷業者に担当してもらい、その後の修正・調整を最終段階まで自分たちで行う方法が、費用、作業負担、ならびに自分たちで作り上げる完成度のバランスという観点から、より効率的であると考えられます。

また、完成データを事務局にてマスターデータとして保管したことで、軽微な修正を内製で対応でき、追加費用の抑制につながりました。加えて、次回以降の記念誌作成時においても、参考資料として活用可能な資産を残すことができました。ただし、本手法は、事務局内に当該アプリを扱える人材および環境が整っていたことを前提として成立したものであり、次回以降の周年事業において、必ずしも同様の体制を再現できるとは限りません。そのため、人的リソースや環境に応じて、制作ソフトや役割分担を柔軟に検討する必要があると考え

られます。

③ 記念誌の配信と提供方法に関する手法について

記念誌の提供方法については、創立 70 周年記念式典および祝賀会に来賓として招待させていただいた方、姉妹 JC、賛助会員には紙媒体を送付し、それ以外の四日市 JC シニアクラブ会員、現役会員および研修生にはデータ配信を基本としました。また、希望者には有償（実費精算）で紙媒体を提供する方法を採用しました。

その結果、データのための配信対象者 505 名中、紙媒体の注文は 16 名にとどまり、注文率は約 3%となりました。この数値から、紙媒体を一律配布する方法と比較して、データ配信を基本とした本手法は、費用対効果および実際のニーズの観点から合理的であったと考えられます。

④ 総合的な手法評価について

上記①～③の手法により、記念誌の品質確保、費用の抑制、四日市青年会議所へのノウハウ蓄積、ならびに次回以降への引き継ぎという複数の目的を同時に達成することができました。

本事業において採用した具体的手法は、状況に応じた柔軟な運用を前提としながらも、再現性および応用性が高く、今後の周年事業（記念誌作成）においても有効な手法であったと考えられます。